

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 5年 5月 16日

事業所名 児童クラブきりんの家

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	88%	13%	現状定員に達してなく、スペースに余裕がある。	
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	時間ごとのスタッフ数だけでなく、子ども一人あたりのスタッフの人数も確認し支援にあたるようにしている。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	63%	38%		
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	88%	13%	前日の振り返り、面談などを行っている。	内容の共有だけでなく、事例を踏まえたミーティングをより行いスキル向上へと繋げていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	50%	50%		今回が初めての実施であり、今後も継続して行っていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%		今回が初めての実施であり、今後も継続して行っていく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	50%	38%		今回が初めての実施であり、今後も継続して行っていく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	63%	38%		事例検討会等を定期的に行い実践に繋がる機会を設ける。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	75%	25%		内容の共有も不十分であると考えられ、職員間の理解が浅い可能性がある。朝礼、ミーティングを活用して全スタッフがより支援計画の理解に努める。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	38%	63%		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	75%	25%	季節、天候に合わせた立案をスタッフでミーティングしている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	63%	38%	公園、施設の下見・開拓をしている。活動プログラムについて記録し、選択して実施できるように準備している。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	88%	13%	季節、天候、利用人数、時間などを考慮して施設内外での取り組みを設定している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	50%	50%	個々の現時点レベルに応じた計画を立てるようにしている。	計画の更新頻度を高め、職員間でのミーティングを活用してより詳細な計画を実施する。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	88%	13%	スタッフの一日の行動についてスケジュールを作成し、一人ひとりが把握できるようにしている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	75%	25%	終礼の時間を活用して日々共有している。	非正規職員に関しても共有を図るため就業時間前にミーティングを実施する。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	63%	38%		
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	88%	13%			
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	75%	25%			

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	88%	13%	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	88%	13%	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0%	0%	対象者なし
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	75%	25%	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	0%	0%	対象者なし
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%	0%	吹田市自動発達支援センターや関西大学の心理臨床カウンセリングセンターと連携をとっている
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	100%	0%	月一回土曜日に提供している
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	63%	38%	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	送迎時にその日のお子様の様子を伝え、対応の工夫や課題について情報提供している
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレントトレーニング等の支援を行っている	100%	0%	ペアレントトレーニングの講座を開催している	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	家族支援のためのカウンセリングルームを設置している
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	13%	88%	ペアレントトレーニングの講座を年4回に開催するようにスケジュール調整する
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	75%	25%	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	88%	13%	
	35	個人情報に十分注意している	88%	13%	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	88%	13%	情報共有の際に保護者の状況を考慮して伝え方や伝える情報内容を吟味している
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0%	100%	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	75%	25%	利用者のスケジュールを調整し、年2回実施するようにする
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	63%	38%	虐待防止委員会を設置し、職員の研修や子どもの生活環境の変化を敏感に察知するようにしている
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	75%	25%	一次予防として環境調整の工夫をしている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	